

春 出 遺 跡

—玉名市中字徳丸における集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2021

玉名市教育委員会

序

玉名市は、熊本県北西部の菊池川下流域に位置し、旧石器時代からの長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。九州新幹線を軸に県北部の経済・観光ならびに教育・文化の拠点として、更なる発展を遂げようとしています。

このような中で、玉名市教育委員会では、様々な開発事業と埋蔵文化財発掘調査の円滑な調整のため、埋蔵文化財行政の充実に努めているところです。また、その成果の公開および活用を通じて広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、集合住宅建設に伴い実施した玉名市中字徳丸に所在する春出遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が、文化財に対する理解の一助となり、また学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたりましては、各方面で多くの方々にご多大なご理解とご協力を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。

令和3年1月29日

玉名市教育委員会
教育長 福島 和義

例言

1. 本書は、玉名市教育委員会が令和元年度に実施した熊本県玉名市中字徳丸に所在する春出遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘作業は、玉名市教育委員会が実施し、田熊秀幸が担当した。
3. 発掘作業における遺構実測および写真撮影は、田熊が行った。
4. 挿図に記載している座標値は、玉名市役所税務課の地籍図等から転記し、世界測地系第Ⅱ座標系に基づいている。
5. 整理事業は、玉名市文化財整理室で行った。
6. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
7. 本書の執筆および編集は、中村安宏が担当した。

I. はじめに

1. 調査に至る経過

本調査は、熊本県玉名市中字徳丸1460番1において、集合住宅建設が計画されたことに起因する。建設計画地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である春出遺跡の範囲内に所在していたため、令和元年7月2日付けで、文化財保護法第93条（以下、93条）の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が行われた。令和元年7月8日、計画地において確認調査を実施した結果、時期不明の柱穴2基と土坑2基が確認された。遺構が確認された範囲は、建設工事により掘削が予定されており、工事主体者等との協議の結果、計画変更による埋蔵文化財の保存が不可能であったため、遺構が損壊される範囲（北側建物予定地・南側駐車場予定地）227.5㎡を対象として本調査を実施し、遺構の記録保存を行うことで合意した。その後、93条を熊本県教育長に進達し（令和元年11月15日付け玉市教文第165-1号）、工事着手前に発掘調査を実施すべき旨通知がなされた（令和元年11月21日付け教文第1821号）。その後、令和2年1月7日付で工事主体者と玉名市教育委員会との間で、埋蔵文化財発掘調査にかかる協定および委託契約を締結した。現地での発掘調査は、令和2年1月21日～2月20日の期間において実施した。その後、令和2年6月5日付けで報告書作成に関する委託契約を締結し、令和3年1月29日に報告書作成を完了した。

2. 調査の体制

発掘作業および報告書作成は、下記の体制により実施した。

発掘作業（令和元年度）

調査主体	玉名市教育委員会		
調査責任	教育長 池田誠一		
調査総括	教育部長	西村則義	
	文化課長	松田智文	
	文化課長補佐兼文化財係長	田中康雄	
庶務担当	技術主任	田熊秀幸	
発掘調査員	技術主任	田熊秀幸	
発掘作業員	緒方雄二 谷口洋介 中島明子 村上厚生		

報告書作成（令和2年度）

調査主体	玉名市教育委員会		
調査責任	教育長	池田誠一（令和2年12月3日まで）	
	教育長	福島和義（令和2年12月4日から）	
調査総括	教育部長	西村則義	
	文化課長	伊藤恵浩	
	文化課長補佐兼文化財係長	田中康雄	
庶務担当	主査	中村安宏	
編集担当	主査	中村安宏	

II. 位置と環境

1. 地理的環境

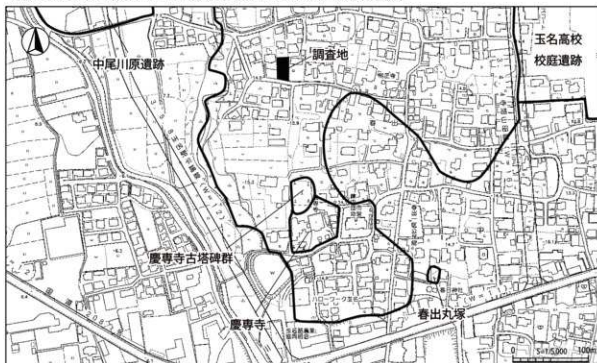
玉名市は、熊本県の北西部に位置する面積 152 平方キロメートル、人口約 6 万 5 千人の地方都市であり、北西部を荒尾市、南東部を熊本市と境を接する。

地形を概観すると、一級河川である菊池川が市域の中央を北東から南西方向に九州最大の内湾である有明海へ貫流し、その周辺には、菊池川とその支流の繁根木川、木葉川等によって形成された玉名平野が広がり、玉名平野の北西部には、筒ヶ岳（標高 501 m）を主峰とする小岱山地、丘陵地およびこれに続く段丘の発達する台地がみられる。

春出遺跡は、境川左岸の小岱山から南に緩やかに傾斜する標高 15 m 程の台地上に位置する。

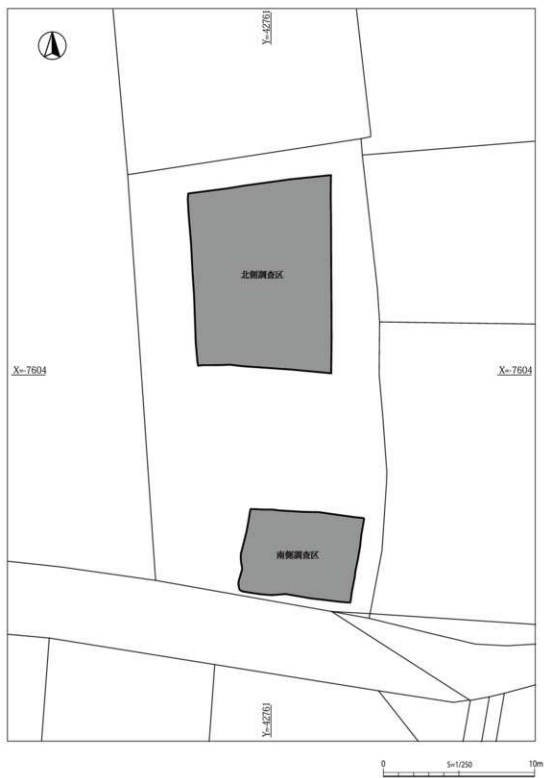
2. 歴史的環境

玉名市には旧石器時代から人々の痕跡が確認でき、西照寺備中遺跡ではナイフ形石器が発見されている。縄文時代になると有明海沿岸部に沿って平野と台地の接点などに、尾崎貝塚などの貝塚が分布しており、当時の海岸線が内陸に入り込んでいた様子がうかがえる。弥生時代には水稲農耕が開始され、前期では齊藤山貝塚、中期では塚原遺跡や古閑遺跡などの集落があり、後期になると高岡原遺跡や大原遺跡など大規模な拠点集落が出現する。古墳時代前期後半には、院塚古墳などの前方後円墳が造られる。古代においては、律令制の下、玉名台地上に郡衙および郡衙道が整備され、条里制が施行された。中世の荘園制度の下では、現玉名市の菊池川右岸のおおよそ南半分は大野別府とされ、南北朝期には大野荘ともいわれ、荘園領主は要所に堀や土塁など防御施設を備えた城館を築くようになる。今回の調査地一帯は、その大野一族との関連が指摘されている中世の「中村館跡」と推定されており、窪地状になっている道路は堀跡の可能性が高く、竹藪となっている高まりは土塁跡と考えられる（第 13 図参照）。

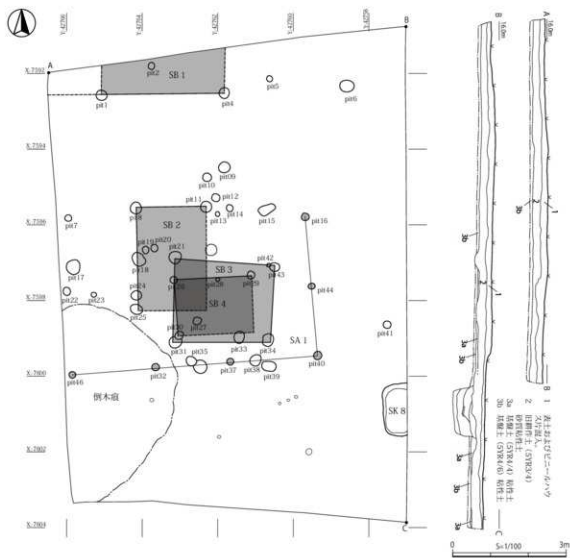


第 1 図 春出遺跡調査地位置図

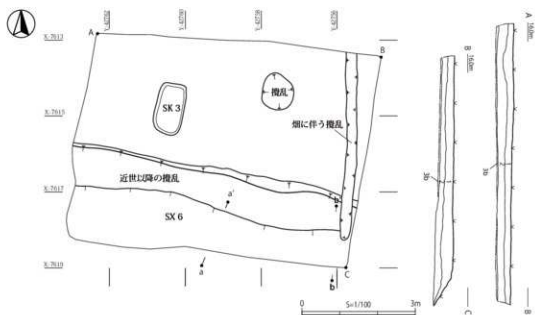
Ⅲ. 調査の記録



第2図 発掘調査地全体図



第3図 北側調査区道構配置図(建物予定地)



第4図 南側調査区道構配置図(駐車場予定地)

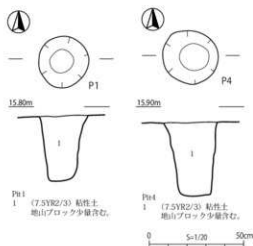
1. 検出遺構

今回の調査では、時期不明の掘立柱建物跡4棟、堀または柵跡、堀状落ち込みおよび土坑2基、その他ピット複数を検出した。

【北側調査区】

SB 1 掘立柱建物跡 (第3・5図)

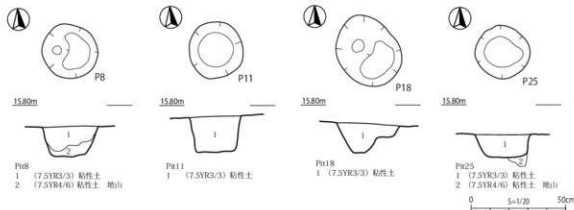
北側調査区の北西部に位置し、遺構検出面の標高は15.7 m前後である。規模および平面形は、南東部の東西方向に柱穴2基を検出したのみであるため不明である。検出した2基の柱間は約3.3 mを測る。柱穴は直径0.3 m前後で、検出面からの深さは0.3～0.4 m前後である。



第5図 北側調査区 SB 1 平・断面図

SB 2 掘立柱建物跡 (第3・6図)

北側調査区の中央部からやや西よりに位置し、遺構検出面の標高は15.7 m前後である。規模および平面形は、1間×2間の長方形を呈し、長軸を南北に採る。柱穴は直径0.3 m前後で、検出面からの深さは0.1～0.2 m前後である。



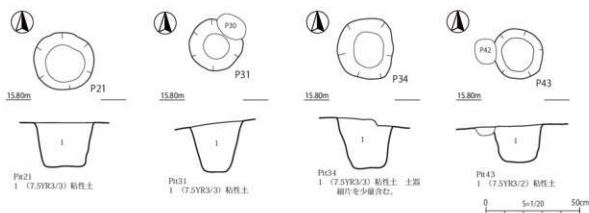
第6図 北側調査区 SB 2 平・断面図

SB 3 掘立柱建物跡 (第3・7図)

北側調査区の中央部に位置し、遺構検出面の標高は15.7 m前後である。規模および平面形は、1間×1間の長方形を呈し、長軸を東西に採る。柱穴は直径0.3 m前後で、検出面からの深さは0.2～0.3 m前後である。

SB 4 掘立柱建物跡 (第3・8図)

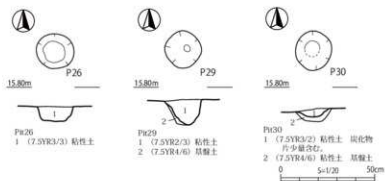
北側調査区の中央部に位置し、遺構検出面の標高は15.7 m前後である。規模および平面形は、1間×1間の長方形を呈し、長軸を東西に採る。柱穴は直径0.2 m前後で、検出面からの深さは0.1 m前後である。



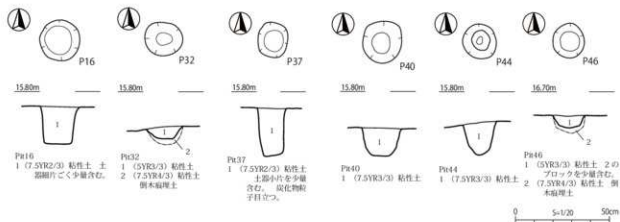
第7図 北側調査区 SB 3平・断面図

SA 1 堀または柵跡 (第3・9図)

北側調査区の中央部に位置し、遺構検出面の標高は15.7m前後である。規模および平面形は、南北方向2間・東西方向3間のL字形を成している。柱穴は直径0.2m前後で、検出面からの深さは0.1~0.2m前後である。



第8図 北側調査区 SB 4平・断面図



第9図 北側調査区 SA 1平・断面図

SK 8 土坑 (第3・10図)

北側調査区の南東部壁際に位置し、遺構検出面の標高は15.6m前後である。規模および平面形は、東側が調査区外であるため不明であるが、長軸長1.4m、短軸長0.8mの小判形を呈す。遺構検出面からの深さは0.5m前後である。埋土3層上面から近世陶磁器片、加工跡がある凝灰岩および石等が出土した。

【南側調査区】

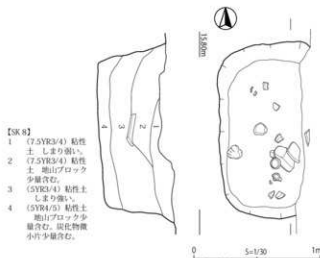
SK 3 土坑 (第4・11図)

南側調査区の中央部よりやや西側に位置し、遺構検出面の標高は15.1m前後である。規模お

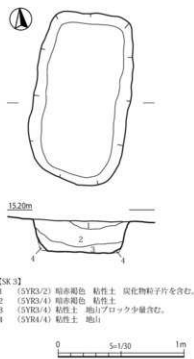
よび平面形は、長軸長 1.4 m、短軸長 0.8 m の小判形を呈す。遺構検出面からの深さは 0.25 m 前後である。

SX 6 堀状落ち込み (第 4・12 図)

南側調査区の南部に位置し、遺構検出面の標高は、15.0 m 前後である。規模は調査区内で確認できる範囲では、長さ 7.5 m、幅 1.5 m、深さ 1.0 m である。埋土上面を近世以降に攪乱されている。地山ブロックが多量混入する埋土 5 層を境にして、堀としての機能を失い埋没している。西サプトレ埋土 6 層から近世陶磁器片および輪羽口片が出土した。

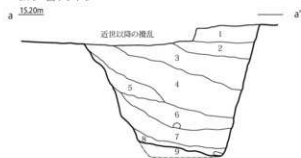


第 10 図 北側調査区 SK 8 平・断面図



第 11 図 南側調査区 SK 3 平・断面図

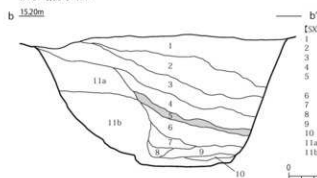
SX 6 西サプトレ



【SX 6】西サプトレ

- 1 表土
- 2 (5YR3/4) 砂質粘性土
- 3 (5YR3/4) 砂質粘性土 しまる。田網片
- 4 (5YR2/4) 砂質粘性土 しまり強い。地山小ブロック含む。
- 5 (7.5YR3/3) 砂質粘性土 しまる。
- 6 (7.5YR3/2) 砂質粘性土 しまる。近世磁器片、輪羽口片
- 7 (5YR3/2) 砂質粘性土
- 8 (5YR3/2) 粘性土 しまり強い。
- 9 (5YR4/4) 粘性土 地山

SX 6 東サプトレ



【SX 6】東サプトレ

- 1 表土
- 2 (5YR3/4) 砂質粘性土 しまる。
- 3 (5YR3/3) 砂質粘性土 しまる。田網片
- 4 (5YR2/3) 粘性土 しまる。炭灰岩小片を含む。
- 5 (5YR4/4) 粘性土 地山の塊れ込み。※この時点で機能を失って埋没している (近世)
- 6 (5YR3/4) 粘性土 しまる。
- 7 (5YR2/3) 粘性土 しまる。
- 8 (5YR3/3) 粘性土 地山小ブロック少量含む。
- 9 (5YR4/4) 粘性土 しまり強い。
- 10 (5YR3/4) 粘性土 しまり強い。
- 11a (10YR4/6) 粘性土 硬盤土
- 11b (10YR5/6) 粘性土 砂れ半を多く含む。砂明層

第 12 図 南側調査区 SX 6 断面図

2. 出土遺物



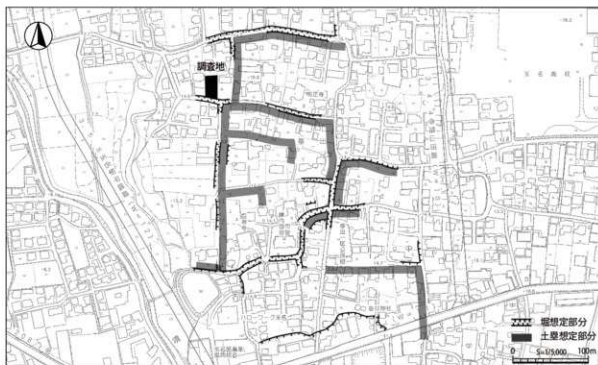
SK 8 出土遺物



SX 6 出土遺物

Ⅳ. 総括

当遺跡は、境川左岸の低台地上に位置しており、弥生・古代・中世の包蔵地とされているほか、付近一帯は中世城館跡である「中村館跡」の範囲としても推定されている。今回の発掘調査では、時期不明の掘立柱建物跡が4基検出され、これらの南側においてL字状に並んで検出された柱穴群は、堀または柵列跡の可能性もある。また、時期が明確でない堀状落ち込みも検出され、埋土からは近世陶磁器片が出土しており、最終的な埋没時期は近世とみられる。これらの遺構は、付近一帯の状況および過去の調査等から中世の「中村館跡」に関連するものである可能性が高く、城館が廃絶し、耕地化される過程を考える上で貴重な成果となった。土坑の時期については、SK8の埋土中層から近世陶磁器片などが出土しており近世と判断した。



第13図 中村館想定図

篠父雅史 2004「18 中村館跡」『玉名市文化財調査報告書Ⅱ』玉名市文化財調査報告第13集 玉名市教育委員会 126頁を一部改変



表土掘削状況



人力掘削作業状況



北側調査区遺構検出状況（南から）



南側調査区遺構検出状況（南から）



北側調査区完掘状況（南から）



南側調査区完掘状況（南から）



北側調査区 SK8 遺物出土状況（西から）



南側調査区 SK3 完掘状況（南から）

報告書抄録

ふりがな	はるでいせき							
書名	春出遺跡							
副書名	玉名市中字徳丸における集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査							
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第47集							
編著者名	中村安宏							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒865-8501 熊本県玉名市岩崎 163 TEL 0968-75-1136 FAX 0968-75-1138							
発行年月日	2021年1月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	路線番号					
はるでいせき 春出遺跡	熊本県 玉名市 中字 徳丸	43206	182	32° 55° 50°	130° 32° 33°	20200121 ～ 20200220	227.5	集合住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
春出遺跡	包蔵地	中世 近世	掘立柱建物跡 厨または欄列跡 土坑 堀状落ち込み	陶磁器片		掘立柱建物跡のほか、外側に厨または欄列跡を検出し、また、堀状落ち込みが検出された。		
要約	春出遺跡は、境川左岸の低台地上に位置しており、弥生・古代・中世の包蔵地とされているほか、付近一帯は中世館跡である「中村館跡」の範囲としても推定されている。今回の発掘調査では、時期不明の掘立柱建物跡が4基検出され、これらの南側においてL字状に並んで検出された柱穴群は、厨または欄列跡の可能性がある。また、時期が明確でない堀状落ち込みも検出され、埋上からは近世陶磁器片が混入しており、最終的な埋没時期は近世とみられる。これらの遺構は、付近一帯の状況および過去の調査等から中世の「中村館跡」に関連するものである可能性が高く、城館が廃絶し、耕地化される過程を考える上で貴重な成果となった。							

玉名市文化財調査報告 第47集

春出遺跡

—玉名市中字徳丸における集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

令和3年1月21日 印刷

令和3年1月29日 発行

編集 玉名市教育委員会
 発行 〒865-8501 熊本県玉名市岩崎 163
 TEL 0968-75-1136 FAX 0968-75-1138
 印刷 有限会社 玉名民報印刷
 製本 〒865-0015 熊本県玉名市亀甲 261
 TEL 0968-72-2535 FAX 0968-72-4648